

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 2月 1日
事業所名	名古屋南ケアセンター そよ風
ユニット名	東ユニット
事業所番号	2371200649
記入者名	職名 管理者 氏名 石川 裕美子
連絡先電話番号	(052) 819 6684

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	「入居者同士共に支え合い、それぞれの個性、能力を發揮しながら、自由に喜びのある生活を送る」という独自の理念がある。		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	理念は、施設内様々な場所に掲示している。理念を噛み砕き、会議等で共有。実践の礎にしている。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	理念は、ご家族には入居契約時に説明している。また、玄関などわかりやすいところに掲示している。運営推進会議には区政協力委員、町内会長にも参加して頂き、会議の中で、その都度そよ風の理念を説明させて頂いている。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	回覧板を廻している。積極的な挨拶に努めている。		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	運営推進会議において町内会長には、そよ風のご利用者が参加できる行事の確認をさせて頂いている。盆踊り、ラジオ体操、お祭り等には参加させて頂いている。また、地域のお店を日常的に利用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	そよ風が行っている「介護なんでも相談室」のちらしを、回覧板にて地域に回らせて頂いた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の結果について、毎回、後日、ケア検討会を開き、ケアの改善に向け取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催、現在7回開催している。運営推進会議の場では、区政協力委員、町内会長、ご家族等に、行事内容、事故報告、ターミナルケアの報告等、様々な取り組み状況についての報告をさせて頂いている。その場で頂いた意見は、ケアや運営の改善に生かさせて頂いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアや運営について疑問がある場合は、その都度、問い合わせをさせて頂き、回答をいただいている。また、名古屋市が実施している「認知症介護実践研修」の実習施設として実習生を受け入れさせて頂いており、担当者も訪問して下さる。自施設のケアを見直す良い機会となっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員はそれぞれに知識として持っていると思われる。また、必要なお利用者にはそれらを活用できるよう支援しているし、実際活用されている。		地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員全体で学ぶ機会がなかった為、今後は、研修や勉強会を積極的に取り入れていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料等を回覧し、学ぶ機会を設けている。また、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。拘束についても、実際のケアの場面で、何が拘束に当たるか学ぶ機会を持ち、やむを得ず拘束を行う時には、ご家族に状況説明の上、相談し、同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約共に、ご家族との十分な話し合いの上行っている。入居時には、管理者、ご家族と契約書、重要事項説明書の読み合わせを行い、また、管理者から説明、補足を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に苦情相談窓口について説明。また、苦情相談窓口について、ご利用者、ご家族のわかりやすいところに掲示している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の面会時には、ご利用者の近況報告（暮らしぶり、行事の様子、健康状態、往診の結果、血液検査の結果、お小遣いの収支等）をさせて頂いている。また、3ヶ月に1度のご家族との面談では、改めて近況報告させて頂いている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設置。また、苦情相談受付担当者を明示したものを、わかりやすい所に掲示させて頂いている。また、実際の意見、不満、苦情については、内容を検討し、運営に反映、改善できるよう努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に把握に努め、よりよく実現できるよう努力している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用者の状態、また必要に応じて、勤務の調整をし、職員を確保するよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、5年間、継続して勤務している。ユニット間での職員の異動の目的は、各ユニットのケアの質の維持・向上を図る事を原則とし、ご利用者への影響は最小限となるよう努めている。また、ユニットを超えてご利用者の情報交換をしており、異動時のケアへの影響は最小限になっていると思われる。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	不定期ではあるが、施設内での勉強会（「高齢者の理解」「緊急時の対応」「介護技術」等々）を実施。法人内外の研修への参加も勧めている。		今後は勉強会や、職員の段階的な研修受講について、計画性を持ち、かつ継続的に行っていけるよう務めていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋南東部GH交流会に参加し、近隣のGHの様子を伺ったり、職員同士、意見交換をしている。また、特定のGHと相互訪問しており、その事が自施設の振り返りとなったり、ケアの質の向上により良い刺激となっている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ケアが行き詰らないよう、話し合いの場を設けている。事業所として、慰安旅行や新年会その他、計画実行している。		それぞれの職員が、感じているストレスについて各自前向きに解消されているようで、ストレスを抱え込まれているようには見受けられない。しかし、ストレスの解消を各自に負わせるのではなく、事業所としても、軽減する為の工夫や環境作り等の取り組みが必要と思われる。今後は、これまでの「やりがいを見出す」取り組みを継続すると共に、積極的なストレスの軽減への取り組みにも力を注いでいきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康状態の把握、休日の確保等、心身ともに意欲を欠くことがないように配慮するように努めている。また、勉強会やケア検討会を実施することで、職員が前向きに意欲を持ってケアに取り組めるよう、努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人と面談し、傾聴している。できる限りご希望に沿う事ができるよう、自然な形で聞き出せるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族との面談において傾聴し、お気持ちや求められている事への理解に努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時、必要としている支援を見極めるよう努めている。(場合によってはまず、併設のDSへの利用を検討)</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>有料体験入居を行っている。対象となる方が認知症である為、サービスにあたってはご家族が主導であることが多いが、ご本人の生活歴などの情報を基に、環境作りに努めている。有料体験入居開始までに、職員間で事前情報を共有し、スムーズなコミュニケーションが図れるよう努めている。状況によってはDS利用からGH入居という経緯をたどられる場合もある。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>同じ時間を共有する中で、一緒に笑いあったり、悲しんだりできる関係を築けるよう心掛けている。また、ご利用者から学ぶ、教えて頂くという姿勢も心掛けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所時には近況報告をさせて頂いている。ご家族のご本人への思いを伺うと共に、ご家族面談や家族会などを開催し、関係が途絶えないよう、楽しく共に過ごす時間を実感できるよう配慮させて頂いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	中間的な立場として、より良い関係が築いていけるよう、情報の共有や報告を行っている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントをする中で、ご本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を把握し、ご本人の希望があれば、できるだけ関係が継続できるよう努めている。ご家族やご友人の来所を歓迎しており、年賀状等手紙のやり取りも進めている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の生活の場であることを意識し、時には職員が仲介させて頂いたり、環境作り（ソファやテーブルの配置の検討）をするなどし、ご利用者同士の関係が良好に保てるように努めている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も、関係を断ち切らない付き合いを大切にするという姿勢は持ち合わせているが、4年以上退去されたご利用者がいない為、現状は取り組むべき対象者がいない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話の中で、希望などが引き出せるよう会話を大切にしている。また、言葉だけでなく表情や体の状態からも希望、思い、意向を汲み取るよう努めている。希望、思い、意向の把握が困難な場合は、日常生活の中で喜ばれる事、楽しまれることを本人本位に検討し、実行している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>できる限りご家族に、これまでの生活歴をお聞きしている。アセスメントにセンター方式を活用し、ケア検討会を開き、全職員が情報を共有できるように努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>申し送りを詳細に行い、記録に残す事で、各職員は各ご利用者の日々の様子、暮らしぶりを総合的に把握するように努めている。また、申し送りの中で気になる点については、その都度情報の共有や話し合いをするなどし、生活の質の向上に努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、ご本人、ご家族に伺った希望から、立案するよう努めている。3ヶ月に1度ご家族面談を行い、この時、ご家族の希望は確認させて頂いている。職員間でもモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じてモニタリングを行い、内容の検討を行っている。期間を問わず、ご本人の状態、生活に変化があった場合には、その都度、現状に即した介護計画となるよう検討している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に、モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。入居から間もなかったり、状態に変化があった場合には、個別にセンター方式シートを活用し、これを基にケア検討会を実施。介護計画に生かすよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設している。デイサービスのボランティアの演芸観覧や機械浴の使用、デイサービス利用者の入居等々、事業所としての機能は最大限生かし、できる限り柔軟な対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	福祉会館や学区民生委員主催の地域の喫茶サロン、図書館の利用など、地域資源の活用を行ってはいるものの、十分とは言えない。		認知症高齢者に対する理解が十分でないことが、地域資源との協働が好転していない一因であるとも考えられる。今後はより一層、認知症高齢者、認知症高齢者の介護に理解が得られるように、啓蒙、啓発活動に努めていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状は、未だ他のサービスを利用したいというご利用者の意向はなく、他のサービスを利用する必要性のあるご利用者もいない。ただ、ご利用者の意向や必要性があれば、他のサービスも活用できるように柔軟な対応をしていく姿勢は持ち合わせている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要があれば、地域包括支援センターと協働する姿勢は持ち合わせているが、現在のところ、意向や必要性のある方がなく、協働していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は良好。往診は2週間に1度、ご利用者の各居室にて行われる。ご本人、ご家族の希望を受け入れ、緊急時においても24時間の対応、また受け入れ態勢ができています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は認知症をよく理解し、ご利用者、ご家族、職員の相談にのり、診察や治療を行っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	パート勤務の看護職員を配置。また併設デイサービスの看護職員も顔なじみとなっており、支援して下さっている。医療連携体制加算をとっており、対象の看護職員はご利用者をよく理解していて、日々の細かいことなどにも、相談に応じて下さる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医は近隣にあり、入院時も随時面会ができる環境にある。早期退院への理解もあり、退院時また退院後にも、指導、相談、往診など協力体制は整っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について希望をお聞きすると共に、ご本人の状態が変化した時など必要に応じて、ご家族やかかりつけ医と繰り返し意思の確認を行い、職員間で方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	名古屋市への問い合わせの回答も含めて、事業所として「できること・できないこと」を明確にし、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組めると思われる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	ご本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、ご家族及びご本人に関わるケア関係者間で詳細な情報交換を行うよう努めている。また、住み替えによるダメージを防ぐ、もしくは最小限になるよう、ご本人のお気持ちに寄り添うように配慮している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには配慮している。一人ひとりの“誇り”も大切にし、“その人”の“人格”を尊重できるような関わり方に努めている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	日常の会話の中で、ご希望を伺う努力をしている。生活の場面場面で、できる限りご本人に決定していただけるよう、その方にあわせた選択肢を設けるようにも努めている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	職員側の決まりや都合が優先にならないよう努力している。会議でもケアの再確認を行っている。できる限りご本人からその日、その時の希望を表せるような、会話に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	理容・美容については、馴染みの店があるご利用者には、希望に応じられるように努めている。当施設にて行われる移動理美容の利用については、ご本人の希望を伺っている。髪型についても、ご本人の希望を伺っていただけるよう、業者に依頼、仲介している。外出時はご本人がお持ちの衣類や小物等でその人らしさが演出できるように、配慮させて頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きなものをメニューに取り入れるよう努めている。部分的ではあっても、調理、配膳、下善、食器洗い、食器拭き等、その方の力が発揮できる部分では活かしていただけるよう、配慮している。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコなどあらかじめ伺っている嗜好品、望まれる物については、日常的に楽しめるように配慮させて頂いている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて、排泄リズムを把握し、できる限り自立排泄できるよう努めている。また、自然なトイレ誘導をし、落ち着いて排泄できるよう心掛けている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を基本としている。時間帯は決まっているも、希望に応じて入浴して頂いている。		もう少し、ゆっくりと入浴を楽しんでいただけるような工夫が必要と思われる。毎日の入浴にこだわらず、ご利用者がゆっくり楽しんでいただける入浴を検討したい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間、起床時間を設けず、その方のペースで生活できるよう配慮させて頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おやつ作り、散歩、買い物、喫茶店に行く、習字、音楽、絵、編み物等、その方の興味のあること、楽しみなこと、望まれている事を見出し、日々、充実するように努めている。時には、文化祭や作品展への出品を目的としたご本人が得意とされるものの作品作りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額の金額は事務所に保管。外出時には財布を持って頂き、買い物を楽しんで頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、体調を考慮しご本人の希望を伺いながら、希望に沿った外出ができるように努めている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常会話の中で、行ってみたい場所を伺うように努め、できる限りご希望に添えるように配慮させて頂いている。個別ケアにて実施させて頂いている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の受け入れの状況に配慮させて頂きながら、ご本人の希望時に連絡が取れるように努めている。また、普段からはがきや年賀状のやり取りをされている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方々の訪問は歓迎させて頂き、居心地よく過ごして頂けるように、フロアー、居室等、その方が心地よく過ごしていただける環境を提供させて頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は、何が拘束にあたるか理解している。拘束が検討の対象となるような状況でも、その前に多方面からのアプローチを話し合い、極力拘束しないように努めている。現在、ご家族の希望により、車椅子乗車時、安全ベルトをされている方がいらっしゃる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>運営者及び全ての職員は、鍵をかける事の弊害を理解している。居室の鍵は内側からかけられるものであり、職員が施錠する事はない。玄関は現在は、安全の為、テンキーでの管理を行っている。</p>	
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>ご利用者のプライバシーに配慮しながら、過剰にならないよう、さりげなく所在確認をし、安全への配慮をさせて頂いている。</p>	
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>注意の必要な物品であっても、ご本人にとって大切なもの、馴染みのあるもの、より良い生活を送って頂くために必要な物品であれば、ご本人の状態に応じて安全に配慮させて頂きながら、使用していただいている。</p>	
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>ひやりはっと事例について検討し、事故を未然に防ぐよう、その都度話し合いを行っている。また事故が起こった場合は、事故報告書を基に、再発防止に取り組んでいる。緊急時の対応については勉強会を実施。火災については、外部研修に参加するとともに、年2回防災訓練を実施している。</p>	
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>定期的に外部から講師を招き、勉強会を実施している。また、マニュアル、連絡先、手順など、わかりやすい場所に掲示している。</p>	
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、避難訓練を実施している。運営推進会議では、町内会長より過去の災害時の様子をお聞きし、避難方法など助言を頂くと共に、災害時に協力を得られるように、働きかけている。施設内には、非常用持ち出しとして、食料、備品を常備している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	3ヶ月に1度のご家族面談の場、その他必要な時に、その方に起こり得るリスクについては説明させて頂いている。すぐに拘束を行うのではなく、安全に圧迫感のない普通の暮らしができるように、ご家族と十分に話し合いをさせて頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタル、食事摂取量、排泄、体重、睡眠時間、ご本人の顔色・言動等、変わった様子が見られた時は、職員間で情報を共有し、対応させて頂いている。必要に応じて、医師の指示を仰いでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食後の服薬管理を徹底している。服薬後の様子観察も行っている。ご利用者が使用している薬の処方箋を、連絡ファイルに綴じており、目的や副作用、用法や用量についてはおおよそ理解している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて、排便の確認をしている。水分を多く取る、食材に食物繊維の多いものを取り入れる、白米に寒天をいれる、げんのうしょうこを飲んでいただく、散歩・体操などにお誘いする、腹部マッサージを行うなど、自然排便が促せるよう努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご利用者の状態や生活様式に応じて、毎食後の口腔ケアの促しを行っている。口腔内の状態に応じた様々な口腔衛生用品も取り入れ、清潔保持に努めている。義歯を使用されている方は、就寝前、ポリドントにて洗浄させて頂いている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を表に記録し、把握に努めている。摂取量が不足している場合は、補助食品など代替のものを促させて頂いている。水分については、食時と食事の間にも飲み物を提供させて頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルがあり、実行している。外出から戻られた際の手洗い・うがいの励行、掃除・シーツ交換・布巾の消毒・食器を乾燥機にかける等の衛生保持等々、日常的に行っている。毎年予防接種を実施。感染してからの対応についても、話し合っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は毎回食器乾燥器にて乾燥、消毒している。食材は、長期保存をさけ、使いきりを心がけている。基本的には毎日買い物に行き、常に新鮮な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には植え込み、花が植えてあるプランターを置いている。玄関に表札はあるものの、奥まわっていてわかり辛いこともある為、玄関前の植え込みにご利用者を書いて頂いた看板を立てている。玄関に、ご利用者が作られた作品を掲示するなど、親しみやすい雰囲気を心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からベランダに出る窓は大きく、暖かい日差しが差し込んでいる。清潔に努め、花や日めくり、カレンダーで季節を感じて頂けるように心がけている。馴染みのものが視界に入りやすいように、配置させて頂き、居心地のよい空間作りに努めている。ちょっとしたスペースにもご利用者の作品を掲示したり、暖かい雰囲気作りに努めている。BGMやテレビの音にも配慮させて頂いている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当たりには図書スペースがある。ソファはテレビを囲んでいるが、テーブルは外の景色を眺められるところに設置し、時には気の合ったご利用者同士と、時には一人で思い思いの時間を過ごしていただけるように、配慮させて頂いている。新聞、本、馴染みのもの等、手に取れるところに置かせて頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、可能な限りテレビ、タンス、椅子、仏壇、写真、本、小物等々、馴染みのものを持ち込んで頂いたり、好みのもを置いて頂き、過ごしやすい空間作りに心掛けている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開けたり、換気扇を回したりし、換気には配慮している。また、居室のエアコンはご利用者が操作できるようになっているが、ご利用者の状況に応じて、職員にて援助させて頂いている。温度確認はこまめに行い、調節させて頂いている。エアコンの使用が過度にならないように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりが設置されている。わかり辛い段差部分には段差解消バーを設置させて頂いている。居室内はご利用者それぞれの状況に応じて、布団、たたみ、ベッド、椅子等置いて頂いている。ベッドの高さの調節、滑り止め付きスリッパの使用、安全には配慮させて頂いている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	始めから全て援助してしまう事は避け、それぞれのご利用者に合わせた言葉掛けに努めている。居室の表札はわかりやすい大きさと表示させて頂いている。トイレの表示はわかりやすい大きさと、男性用、女性用と、それぞれに視線にあわせた高さに表示させて頂いている。キッチンでは何がどこに収納されているか、表示させて頂いている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは、洗濯物干しの使用だけでなく、テーブルを置きご自由に使っている。季節によっては花火やバーベキューを行っている。外で摘んでこられた草花でさし木を楽しまれたり、野菜を育て食したりされている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当センターが開所して、5年7ヶ月。認知症介護指導者がセンター長として施設を統括しており、常に認知症介護については助言・指導を頂ける環境にある。ご利用者は9名様、約5年間顔ぶれが代わる事なく同じ時を過ごされており、顔なじみとなっている。5年の間には、生命を危ぶまれたご利用者もいらっしゃるが、その度に、職員があきらめることなく取り組んだことで、現在の「顔なじみ」の東ユニットがあると思われる。ご家族同士も顔なじみとなっている。日常生活においては、得意の習字、ハーモニカ、料理などをされたり、時には近隣の福祉センターの体操教室に出かけたり、喫茶店へ出かけたりされ、外出機会も多く、いきいきと喜怒哀楽のある生活を送られているように見受けられる。入居当初に比べると認知症の進行やADLの低下はみられるものの、それは緩やかで遅々としており、場面場面で「生活」を実感しながら過ごしていらっしゃるよう感じ取れる。職員は、ご利用者の残存機能を最大限活かせるよう促しながら、また共に楽しい時間を過ごせるように働きかけしており、認知症介護に対して前向きで意欲的である。ご家族との関係も5年が過ぎ、共にご利用者を支える者として、連絡を密に取るなど、より良い関係が築けている。